

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	表現研究 I (CR)		(TCH104)
講義名（コード）	TCH_表現研究 I_C		(TCH104C)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	渋谷 里美	時間数	30
成績評価教員	渋谷 里美	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	国際力、人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で学生が異なる文化背景を持つ他者への理解力を高めるために、現代の社会課題に対して多様な視点から考えられるようになる。
全体の内容と概要	日本文化をはじめ様々な文化圏を分析し、自分の言葉で多文化圏の人々にその魅力や違いを説明する力を身につける。
授業時間外の学修	提示されたテーマについて理解を深めるために予習が必須である。
履修上の注意事項等	自身の考えをまとめ、豊かで明確な表現力をつけるため、積極的に授業に参加する姿勢が必要となる。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	2/3以上の出席		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	授業の内容・目的を理解することができる	ガイダンス（年間授業スケジュール） 目標設定
2	年中行事① 日本の年中行事の概要を理解する	各国の年中行事についてまとめる 『おもてなしの日本語』第1課－1
3	年中行事② 特徴的な年中行事についてまとめる	各国の年中行事について具体的に調べてまとめる 『おもてなしの日本語』第1課－2
4	年中行事③ 年中行事を紹介する	各国の年中行事についてまとめる→発表する・他国の文化について学ぶ 『おもてなしの日本語』第1課 まとめ
5	異文化理解① 各国の年中行事についてまとめる	日本の年中行事の概要や特徴を理解する 『おもてなしの日本語』第2課－1
6	異文化理解② 各国の年中行事を紹介する	日本の年中行事の概要や特徴を理解する→発表する 『おもてなしの日本語』第2課－2
7	異文化理解③ 他国の文化について学ぶ	日本の年中行事の概要や特徴を理解する→発表する（みんなに紹介する形） 『おもてなしの日本語』第2課 まとめ
8	日本の現代文化① 日本の現代文化について概要を知る	日本の現代文化について概要を知る 『おもてなしの日本語』第3課－1
9	日本の現代文化② 日本の現代文化についてまとめる	日本の現代文化について調べて、まとめる 『おもてなしの日本語』第3課－2
10	日本の現代文化③ 日本の現代文化について紹介する	日本の現代文化について調べて、まとめる→発表する 『おもてなしの日本語』第3課 まとめ
11	日本の歴史的災害について① 日本の災害について概要を知る	日本の歴史的災害について概要を知る 『おもてなしの日本語』第4課－1
12	日本の歴史的災害について② 災害対策について意見を交わす	日本の災害と対策について調べて、考える 『おもてなしの日本語』第4課－2
13	日本の歴史的災害について③ 災害対策について発表する	日本の災害対策について発表する 『おもてなしの日本語』第4課－まとめ
14	期末試験	
15	期末試験解説・総括	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	『おもてなしの日本語』
参考文献・資料等	適宜配布
備考	進度は変更になることがあります。